



学校便り 10月号

# かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008  
発行 令和5年10月16日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP



学校ブログ



里周辺海水温  
28℃(9/30)

## 心に響く笑いと涙の人生学

三遊亭圓歌講演会 より

校長 永野 俊也

ようやく秋らしい、さわやかな風が吹くようになってきました。9月は、4年ぶりに来場制限を行わず、幼小中合同運動会を開催することができました。また、その日の午後は4年ぶりに地域の運動会が開催され、私自身、初めて見て参加することができました。

幼小中合同運動会では、応援団の取り組みを練習から見つめていましたが、中学生が小学生に丁寧に演舞を指導し、それに小学生も一所懸命ついていく姿がありました。そして、運動会が目前に近くと、紅組も白組も最後は一つの輪になり、みんなで踊り掛け声を合わせて盛り上がっていました。その一体感をとても微笑ましく、そして嬉しく思いました。また、地域の運動会も各自治会ごとに、練習から盛り上がっていて、里地域のまとまりを感じ、多くの笑顔にふれることができました。この春島立ちをしていく中3の皆さんにとっては特に、かけがえのない青春の1ページとなったことでしょう。合同運動会も地域の運動会も、本当によきひと時でした。

さて、今月は四代目、三遊亭圓歌（襲名前は歌之介さん）師匠の講演会が10月5日、上甌コミュニティセンターで開催されました。その話題を取り上げてみたいと思います。

歌之介時代から、TVのCM等でよくその姿を見ていましたので、「鹿児島県出身の落語家さん」ぐらいの認識でした。それがパンフレットを見ると先輩18人を抜き真打に昇進して、いつの間にか一門を率いる師匠になってる。「これって、東京の国立演芸場で聴いたら〇万円ぐらいするよなあ〜。いったいどんな講演されるんだろう??? しかも今回無料!」ととても興味を持ち、講演会へでかけました。今回は、講演会が主で、後半落語を一席設けてくれるという構成でしたから、前半は普通の講演会を想像していました。その想定は、スタート直後から覆されます…。も一最初から飛ばす、飛ばす…。すごいテンポでおもしろい話が連発され、会場は最初から大爆笑の渦に包まれていきます。私自身、涙が出るまで笑ったというのは、本当に記憶がないほど久しぶりの体験でした。師匠の話では、大隅半島の大根占で過ごした幼少期の話や、家族の話がよく出てきます。小5の娘さんから、「お父さん、擬音語って知ってる?」「お〜しっちょっど。一つ教えてやる」「そ〜どすえ〜」。真に受けて、テストで擬音語を「そ〜どすえ〜」と書いて、×となり娘から責められるくじりがありました。その話の持って行き方、雰囲気は何とも言えず、絶妙でおもしろいんです。これが、日本の伝統的な話芸のすごさと思いました。あまりの笑いの情報量に講演のテーマが埋もれてしまいそうになるのですが、話の節々には、テーマに沿った印象深い言葉があり、後からしみてきます。冒頭「なぜこんなに元気なの?遊び心がある(笑いがあ)ると元気になる」よりよい人間関係づくりに「あいさつ」は大切。笑いの事例でその本質に迫る等々。また、その人脈の広さや、陰で勉強されている様子も感じ取ることができました。京セラの稲盛元会長の盛和塾で学び、体調不良で急遽講演会に参加できなくなった会長に代わり講演を代行するなど、きっと師匠にしかできないことだと、講演会の後半では「本当にすごい!」と聴きいってしまいました。そして講演は、「会社のために頑張るのではない。自分の人生のために、家族のために頑張るって生きてほしい。そして、余力があれば人のために…」とまとめられていきました。講演後の一席「母ちゃんのアンカ」と共に、家族愛、人間愛とは何かを改めて感じる秋の夜でした。スポーツの秋、芸術の秋は、今年も深まっています。



花束贈呈後の師匠と彩里さん

## 頑張ったね!幼小中合同運動会

9月24日(日)は、里幼・小・中合同運動会が行われました。今年度は、コロナ禍も落ち着き、地域の方の声援もかえてきた中での開催となりました。

子供たちは、練習を繰り返す中で、中学生の動きから多くのことを学び、日々成長し、競技に、応援に、力強い姿を見せてくれました。子供たちが精一杯取り組む姿に、保護者の皆様方も感動されたのではないのでしょうか。

今回の運動会を通して学んだことや感じたことを、今後の生活に生かしてほしいと思います。

運動会準備から当日まで、御協力ありがとうございました。



## 「かごしまの教育」県民週間

11月1日(水)〜7日(火)は、「かごしまの教育」県民週間です。

お時間のある方は、授業参観にお越しください。

なお、参観時間は、2〜4校時

(9:35〜12:15)です。

## 教育実習

10月2日(月)から、本校卒業生の西川輝先生が教育実習に来ています。主に、5年生の教室に入りながら各学年の授業を参観したり、昼休みに子どもたちと遊んだりしています。

夢に向かってがんばる先輩と関わることは、小学生にとっても大変よい刺激になると思います。実習は27日までです。

## 11月行事

- 1日(水)「かごしまの教育」県民週間(〜7日)
- 2日(木)避難訓練(津波)
- 3日(金)文化の日
- 6日(月)読書旬間(〜17日)
- 8日(水)委員会活動
- 9日(木)読書集会
- 10日(金)持久走前検診
- 11日(土)土曜授業日
- 14日(火)生活リズム週間(〜20日)
- 15日(水)クラブ活動
- 16日(木)かのこゆり号来校薬物乱用防止授業
- 19日(日)日曜参観
- 20日(月)振替休日
- 23日(木)勤労感謝の日
- 27日(月)社会科見学宿泊学習(5・6年)
- 28日(火)市陸上記録会(5・6年)
- 29日(水)陸上記録会休養措置日(5・6年)



# 今月の付録

## 海との共生 甌島の海のお話



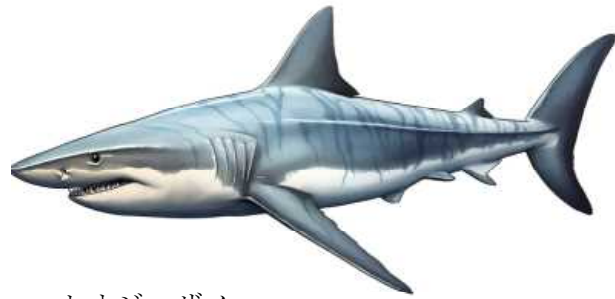
きびなごのひみつ (その1)

今月から、新しいシリーズの付録を立ち上げました。記念誌の編纂後半、「甌島だもの。キビナゴについてもまとめたい！」との思いがありましたが、キビナゴの生体は奥が深く、簡単に調べられず、水族館の学芸員の方や、県の水産試験場等、取材しないと無理だと思い断念しました。そこで、今後付録で、甌島の海の様子や、キビナゴについて調べたことなど、少しずつ紹介したいと思えます。さて、今月のテーマは！

【人喰いザメっているの?】 ~勉強すると、よく見える♪~ です！

さっそく、<sup>こわもて</sup>強面のかっこいいサメに登場してもらいました。結論から言うと、ここ10年間、日本でサメに襲われて亡くなった方は3人なのに対し、スズメバチに襲われ亡くなる方は、1年間で約30名ですから、そもそもサメが好んで人を食べるということはなさそうです(某映画の影響で、イメージが定着したのかな???)。

**ただし**、彼らは、鼻や耳は敏感なんです、目はあまりよくありません。ですから、自分の好物と勘違いされて、ガブッとかまれてしまうことはよくある！危険度の高い魚類であることは間違いありません。また、血の匂いなどを嗅いで興奮状態になると攻撃的になり、サメ自体冷静でなくなりますから要注意です。ここでは、日本近海で見られる危険度の高い代表的な3種のサメについて、少し勉強してみましよう。



ホオジロザメ

まずは、ホオジロザメです(和名のホオジロは、ほっぺたの辺りが白っぽく見えることによります)。平均的な体長は4~5m。大型なうえに猛猛で運動能力も高く、比較的にかしいサメです。沿岸域に生息し、狩りをする時は、獲物の死角から攻撃します。基本獲物は目視でねらうようなので、捕食行動は昼間と考えられます。ただ前述のように、視力がよくないので、サーファーさんなど、好物のアザラシやオットセイ、イルカと勘違いされて、ガブリということがあります。一度噛んだら獲物が出血死するのを待って、それからゆっくり寄ってくる他、海面近くの獲物を海底から狙い、そのまま海面にジャンプするなど、それらの姿や体のスケールの大きさからか、スピルバーグ監督の映画「ジョーズ」のモデルとなっています。高い運動能力を保持するため、体温を高め維持する器官が発達しており、比較的水温が低い海域でも活動が可能で、サメの中では万能なタイプです。

次に、イタチザメ。洋名をタイガーシャークと言うように、体側にはトラのような模様が見えます。平均的な体長は3~4m。これも沿岸域の濁った海を好むようです。また、夜になると浅場に近づき獲物を探すといいますから、夜でも行動可能であると考えられます。

その捕食パターンは、とりあえず噛んで、おいしければ「いただきますぁ〜す」と何でも食べる悪食が有名で、好物のウミガメの他、海鳥やプラスチック容器、タイヤなどもその胃袋からは出てきたりします。「私はおいしくないですよ。」と言っても通用しなさそうです…。



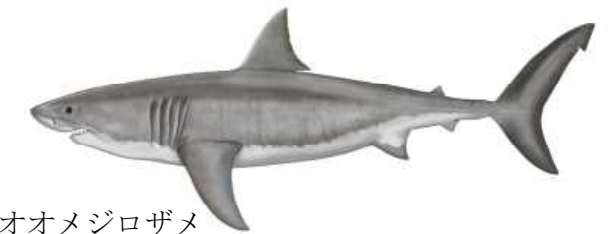
イタチザメ

最後に飾るのは、オオメジロザメです。平均的な体長は2~3m、サメとってイメージに浮かぶ一般的な形状は、このサメのように思います。このサメの特徴は、その生息域が水深20m以浅の濁った海を好み、淡水域にも対応するという事です。小回りが利くため沿岸域の港湾に入り込むこともあり、大型のホオジロザメやイタチザメより遭遇率が高くなり、気性も荒いため一番危険度が高いと言われたりします。

その捕食方法は、魚などが動くときに筋肉から発生する微弱な電気を感知する器官が発達していて、そのセンサーを頼りに捕食行動に入ります。したがって、濁った海や、波の砕ける場所など他の魚が油断してしまう場所でも、平気で獲物を狙うことができます。

こうやって書くと、やはり危険な魚だとわかります。甌島の漁師さん方は、こういったサメをうまくいなしながら、美味しいお魚🐟を食卓に届けるために頑張ってくれているんですね。感謝感謝です。

さて、ここから先は書くか相当悩んだのですが…、「そういえばこの夏、帰ってきた高校生?や中学生がこの付近泳いでいたよなぁ〜」と思い、書くことにしました。多くの方が既にご存知だと思いますが、私は、昨年4月より甌島漁協の組合に入れていただいています。



オオメジロザメ

横を見ると、自分の右横、3~4m先を魚の群れを裂くように体長2.5mほどのサメが通過しました。この日は大潮の干潮、潮止まりをねらって海に入っているの、この地点の水深は4.5mほどしかありません。「まさか、こんな浅い海に出る?!」まったくの想定外でした…。そおとテトラに寄り、いつでもテトラに上がれる態勢を取りながら観察しましたが、3、4回回ってきましたから、どうやらサメに興味を持たれていたようです(突いた魚は浮き輪に下げていましたが、ちゃんと自分の体に寄せて持っていました[これには意味があります])。7,8分その場に留まり、姿が完全に見えなくなってからテトラに沿ってゆっくり泳いで帰ってきました。(右の写真は、その時の記録です。海洋調査も兼ねて海に入ってますから、浮き輪と自分の腕2箇所にGPS付きのコンピューターを常に携帯しています)陸に上がってから、目に焼き付けた情報を基に、サメの種類特定に入りました(前述のサメ情報はその時の副産物です)。すべての情報が、これはオオメジロザメ!と訴えていました。この夏は、各地で猛暑日記録を更新するなど異常に暑い夏でした。海もそうで、昨年と同じ時期に比べ、2℃ほど水温が高く海の魚の様子もかなり変わっていました。この猛暑が原因か?高い水温を好むオオメジロザメがこの海域まで上がってきたのかもしれない。一度すみ着くと1日5~6kmほどの範囲で近辺を回遊する可能性がありますから注意が必要です。対処法としては…(来月号につづく?)

